

第68号
令和3年(2021年)8月10日

発行人
NPO法人成田・里山を育てる会

成田・里山通信

理事長 富樫 武
電話 0476-27-3487
事務局 相原 亮司
電話 0476-35-1550



暑中お見舞い申し上げます



5月 6月 7月 活動&イベント

5月1日 花の回路 自由参加 12名

取香川堤防草刈り
桜の公園 草刈り

*4月末から9月まで草との戦いが始まる。

里山の会、発足当初は全員が不慣れでカレンダー通りに作業計画書作りしていた、しかし、地球温暖化が進み季節の移り替わりも毎年倒しになり、それに合わせて作業計画書作りも変更して作業量の軽減に努めているの現状です。

草刈りだけではなくサクラウオーキング、タケノコ堀りも同じような状態です。

5月2日 果樹園 自由参加 16名

ジャガイモ芽かき&土寄せ
栗園草刈り
種用菜種の収穫

*アグリパーク、来年の菜の花用に種を採取、小さな束にし乾燥して種取りを行う。

5月8日 アグリパーク 自由参加 13名

キンラン・ギンラン実態調査



キンラン・ギンランも開花時期が早くなり、花のない株は見落とした可能性があり実際の株数より少ない数字がでると考えられます。

2020年調査 5月9日

5月16日 定期活動 遊歩道 11名

前期 植林区
新期 植林区
木道脇葎自生区
全区の草刈り

*毎年続けて草刈りをしてきたので古株がなくなり作業量が半減した

*春に植えた桜の苗木が順調に育っています
*枝一杯に花を咲かせる日が待ちどおしい。



5月23日 アグリパーク 自由参加 10名
全体の草刈り

*この季節は草花をはじめ植物の成長期で自生の草花と雑草を区別しての草刈り、作業の能率は落ちるが花一杯の里山にすることが最優先されます。
花の時期はアグリパークは全体が花園と化して見る人を癒してくれます。

6月5日 遊歩道 草刈り 若竹退治 11名
竹伐採地に生えた若竹刈り倒し
受け持ち地区全体の草刈り

*ホタルブクロが白い花を風になびかせて私達を励ましてくれます。



ホタルブクロ 6月5日 オカトラノオ 6月25日

*取香川堤防から木道を渡りきり右側を見ると広葉樹で覆われた森がある、そこを水源とした水が途切れることなく流れ、下流の田圃を潤しています。
手つかずの深緑(ふかみどり)の原生林に山サクラの古木、モミジの大木などがあり、この森の自然はそおーとそのまま残しておきたいものです。

ジャガイモ・ディストロイヤー

正式名:

グランドペチカ

*2010年登録の新種

*覆面姿のディストロイヤーを連想し、開発者が通称として命名

花



2020年から栽培

5月 6月 7月 活動&イベント

6月6日 果樹園 自由参加 12名

- ① さつま芋 植え付け
- ② 落花生 種まき

小雨の中さつま芋植え付け、天候的には最適な日和、作業するには最悪の天候。予定していた落花生の種まきも小雨の中実習体験の親子3組も実行した。

*2021年度の親子野外実習体験に3組が参加、これから1年間(5回)野外活動を共にします。今回は父親の参加もあり幸先の良いスタートです。

*指導者に子供たちのハイハキした返事が新鮮に感じた、見習いたいものです。



2021年度野外実習体験の親子

*夜は国際医療大学病院隣の沢でホタル観賞会・調査が行われた

6月20日 花の回廊 定期活動 11名

花の回廊 重点的にサクラとアジサイの小公園の草刈り

*アジサイは株の中に生えた草

枯れた枝があり機械は使えず手作業です。



*本日のニュースは雉の巣と卵

キジの卵

発見者・写真 相原厚司さん



7月10日 遊歩道 自由参加 10名

草刈り作業

若竹切り倒し

梅雨の中休みの上天気、高温多湿で皆さんお疲れの様子、体は疲れても顔はにこにこ里山を愛する(里山魂)を見た一日でした。

7月11日 共同農場 自由参加 12名

ジャガイモ掘り

ジャガイモ掘った跡地に黒豆播種

2021年 ジャガイモ収穫



7月18日 果樹園 定期活動 13名

サツマ芋畑、除草作業

果樹園回り草刈り



ヤブミョウガ満開 果樹園手前の林 7月24日

6月22日 果樹園 早朝

食後の散歩を楽しんでいるキジ

*果樹園での家庭菜園は野鳥や小動物達の恰好の餌場となっている、それも自然と触れる代価と納得、生業としてない者の気楽さでしようか。



6月27日アグリパーク 自由参加 14名

草刈り作業

若竹切り

*アグリパークはこの季節が年間を通じて花が一番多く見られます。

7月25日 アグリパーク 自由参加 11名

夏休前、最後の活動日

アグリパーク内遊歩道全体の草刈り、ヒマワリ畑周りの草刈り

真夏の暑さに合わせ作業は午前中で終了

身近に自生する山野草 ④③ タシロラン(田代蘭)

準絶滅危惧種 (田代蘭) タシロラン

名前の由来

発見者で植物学者、田代善太郎氏の名をとり、牧野富太郎博士により命名された

分布

関東以西の太平洋側。近年では福島県でも見た報告がある

東南アジア、オーストラリア、アメリカに分布

科名

ラン科トラキチラン属

花色

白色(花弁に赤紫の班文が見られる)

花期

6月、7月

特徴

暖温帯の常緑広葉樹林内に生える多年生菌従属栄養植物

光合成しない腐生植物、葉緑素がなく白色

2~3週間で刈れる、1年のうちほとんど地中で育成しキノコに寄生する。

*繁殖は塊茎から細い根茎が地中をはい、途中と先端に球状塊茎を作って繁殖する。

感想

20年の里山活動で出会った最も印象に残る植物です。一目見て森の妖精を連想した。

身の丈15cm位のタシロランですが、存在感のある植物です。

常緑広葉樹と竹が混在する荒山を整備した場所に姿を見せたタシロラン、来年も見られるかは今のところ不明です。



6月27日 アグリパークで撮影
姿は小さいが受けた衝撃はメガトン級

*銀龍草(ギンリョウソウ)を見て薄気味悪いと言う人もいますが、タシロランもまた同じように感じます。両方とも花というよりキノコに見える



タシロランの群落 参考文献より

5月 6月 7月 活動&イベント
参加延べ人数
156名

*8月は夏休みで活動お休みです
コロナと暑さには十分配慮し、9月
元気な顔でお会いしましょう



銀龍草(ギンリョウソウ)

5月3日（晴れ）

新緑のアグリパークを歩いてきました。

作業しながら見る風景が散歩で見ると違って見えるから不思議です。

里山といえは花や木を主体にしがちだがそこに住む小動物昆虫類、流れる小川には水生動物がいて里山を構成している。

田植の終わった田圃に白鷺を見かける餌の水生動物は健在だなと思ひながら。



自生の藤を取り込んだ・ふじ棚

新緑の中のフジが見事でしたアグリパーク 5月3日



キンラン アグリパーク 5月8日



マタタビ花 果樹園 5月11日 今年花が咲き結実も期待できそうです



アヤメ 遊歩道（木道） 5月1日

西洋桑（果実として栽培）

果樹園に一本の桑の木があります。その存在さえ知らず枝は伸び放題で支柱もなく枝が地面を這っている状態でした。

今年の春先枝を整え支柱を立て観察していると花が咲き、5月になると枝一杯に実を付けた。（摘果して熟すのを待つことにした）

*桑には養蚕業で蚕の餌としての「ヤマグワ」（昔、食べた記憶のある方も）（西洋桑）フルーツとして栽培の2種類あり果樹園の桑は西洋桑です。

一般的にはベリー類（ブラックベリー、ラズベリー）などはバラ科でツル性桑はクワ科の植物で木です

*桑の実とは別名マルベリー、またはミュールとも呼ばれる



赤紫が熟してくると真黒になる



見た目には黒く見えるが素手で触ると手は真っ赤になり水で洗っても落ちない程です。

*ドドメイロ（土留色）正確な定義はないが熟した桑の実の色がドドメイロと呼ばれているらしい。